

投稿原稿執筆要領

(2022年10月15日改定)

1. 「日本官能評価学会誌」に投稿する論文の原稿は、この執筆要領に従って作成する。
2. 原稿は、A4版縦置きで作成する。学会HP掲載の「投稿原稿テンプレート」を使用する。
3. 研究論文および技術報告は、標題、著者名、著者の研究機関名等、抄録、キーワード、本文、(註)、(謝辞)、引用文献をもって構成する。
4. 標題は、論文の内容を具体的かつ的確に表現し、しかも不要の文字(例…に関する研究)を省き出来るだけ簡潔なものとする。なお、標題中にキーワードが含まれるように配慮する。
シリーズ番号を付ける場合は、副題の形式とし、脚註に記載する。
5. 著者名は、姓、名を略さず掲載する。
6. 著者の所属機関は、当該研究の行われた機関とし、その正式名称を記載する。
7. 標題、著者名、著者の所属機関名等には、英文を付記する。著者名は、ローマ字で、姓の文字のすべてと名の頭文字を大文字で記載する。
8. 抄録は、本文を読まなくても内容の要点が理解できるものとし、英文で、改行せずに、200語程度で作成する。なお、参考までに、和訳を添付する。
9. キーワードは、論文内容を代表する単語とし、日本語、英語各々6個以内を主として標題および抄録から抽出する。
10. 研究論文、技術報告およびノートの本文は、原則として、緒言、方法、結果、考察、結語の順に作成する。
論理的かつ明確な構想に基づいて記述されていること、その研究を行った理由、既往の研究との関連性も明示されていること、使用した方法・テクニックは専門研究者が読んで追試し得るように記述されていることなどが要求される。
また、読者にとって読みやすいよう記述の重複を避け、簡潔明瞭な文章の作成にも留意される。
11. 図・写真・表
 - (1) 実験結果を図・写真・表等を用いて効果的に表現する場合は、考察に必要な最小限とし、簡単な結果は本文で記述する。なお、図と表の重複は避ける。
 - (2) 本文中では、図・写真は Figure 1, Figure 2, 表は Table 1, Table 2 などと通し番号を付し、図表の挿入位置を原稿の余白に指定する。
 - (3) 図・写真・表のキャプション(見出しおよび説明)は、本文を読まなくとも理解できるように、英文で作成し、別紙に番号順に一括記載する。ただし、内容により日本語のキャプションも可とする。
 - (4) 図・写真・表は本文とは別ページに1点ずつ載せ、ページ下部余白に図の番号と著者名を記載する。
12. 掲載可となった原稿は、メールにて提出する(提出先: toukou_jsse@jisse.net)。
13. 引用文献
 - (1) 文献を引用する場合は、本文中の当該箇所に(著者名, 出版年), 著者名(西暦発行年)のかたちで記載する。
 - (2) 著者が連名の場合、2名まではそのまま記載し、3名以上の場合「筆頭著者名, 他(et al.)」とする。
 - (3) 投稿中で掲載決定済みの文献を引用する場合は、西暦発行年の代わりに(印刷中)と付記する。
例: 本文…(吉澤, 1996, 7)
…(吉澤・角田, 1996, 7)
…吉澤, 他(印刷中)
14. 引用文献は、論文末尾に一括掲載し、筆頭著者名(姓)のアルファベット順に並べる。参考文献は含めない。
 - (1) 同一著者の複数の文献をあげる場合は年号順に、さらに、同一著者で同一発行年の文献が複数ある場合は、年号の後にa, b等をつけて(1996a)(1996b)のように区別する。
 - (2) 文献の表記は下記に準ずること。雑誌名は全て省略しない。
雑誌論文: 著者名[全員](発行年)論文タイトル, 雑誌名[欧文の場合はイタリック], 巻[ゴシック](号), 始めの頁-終りの頁。
書籍: 著者名[全員](発行年)『書名』[欧文の場合はイタリック], 発行社,

発行地.

: 著者名 [全員] (発行年) [タイトル]
編著者名 [全員] 『書名』 [欧文の場合
はイタリック], 発行社, 発行地,
掲載ページ.

ウ エ ブ: 著者名, 当該情報のタイトル, ウェ
ブサイト名, URL (閲覧年月日)

例: 山口静子 (1991) 味の研究における官能検査の
役割と有効性, 日本食品科学工学会誌, **38**
(10), 972-978.

Naes, T., Hirst, D. and Baardserh, P. (1994) Using
cumulative ranks to detect individual differences
in sensory profiling, *Journal of Sensory Studies*, **9**
(3), 87-99.

浅賀英世 (1989) 基準嗅力検査法—T&T オ
ルファクトメータによる検査—, 『匂いの科
学』, 高木貞敬, 渋谷達明編, 朝倉書店, 東京,
pp. 190-194.

Arnold G.M. and Williams, A.A. (1986) The use
of generalized procrustes technique in sensory
analysis, *Statistical Procedures in Food Research*,
Piggott, London, UK, pp. 233-253.

日本官能評価学会, 投稿規程, 日本官能評価学会
ホームページ, [http://www.jsse.net/contribution/
index.html](http://www.jsse.net/contribution/index.html) (2015年4月1日)

英文原稿の場合: 和文雑誌・単行本名はそのまま

ローマ字綴りとし, その他については和文原稿の
場合に準ずる.

例: Hatae, K. (1993) Shingou Kensyutsu
Riron No Kannokensa Heno Ouyou (in
Japanese), *Nihon Chouri Kagaku Kaishi*
(*Journal of Cookery Science of Japan*),
28(3), 78-87.

Sato, S. (1978) Shakudo No Toukyorisei
To Touhisei, Kannokensa nyumon,
Nikkagiren, Tokyo, pp. 145-148.

15. 用語・用字・記号等

- (1) 原則として常用漢字, 現代かなづかいを使用す
る.
- (2) 見出しは, 1, 1-1, 1-1-1 の順とし, 箇条書き
は(1), (2)を用いる.
- (3) 生物の学名は, イタリックに字体指定する.
- (4) 数字は, アラビア数字を用いる.
- (5) 計量単位は国際単位系 (SI) を基本とする.
- (6) 物質名, 生物の学名は, 本文中初出時には略さ
ずに記載し, 略号を使用する場合はそれに続いて
括弧書きで示す.

常用的に使われる物質名その他の用語のうち,
極めて使用頻度が高く, かつ, 国際的に共通の略
号で使い方が統一されているものは, 説明なしに
その略号を使用できる.